

2011 年度日本魚類学会年会 高校生研究発表講演要旨

日時: 10月1日(土) / 12:45-14:00 (コアタイム)

場所: 弘前大学 文京町キャンパス 魚類学会年会ポスター発表会場(大学会館 3階大集会室)

プログラム

- 1 岐阜県におけるカラドジョウの初記録と大陸産ドジョウの侵入について
°梅村啓太郎(岐阜高等学校)・高木雅紀(岐阜高等学校)・向井貴彦(岐阜大学)

講演要旨

- 1 岐阜県におけるカラドジョウの初記録と大陸産ドジョウの侵入について

°梅村啓太郎(岐阜高等学校)・高木雅紀(岐阜高等学校)・向井貴彦(岐阜大学)

カラドジョウはドジョウ科に属する純淡水魚であり、中国大陸から、台湾島、朝鮮半島にかけて分布する。近年、野生化したものが日本各地で確認されており、外来生物法における要注外来生物として在来のドジョウとの競合や交雑などが懸念されている。今回、岐阜市細畑および同市岩地の長良川水系新荒田川に注ぐ水路において、カラドジョウを採集した。これまで岐阜県におけるカラドジョウの報告はなく、本報告が初記録となる。

岐阜市細畑では2011年7月15日と7月21日に採集を行い、カラドジョウ4個体、ドジョウ4個体が採集された。岐阜市岩地では2011年7月21日に採集を行い、カラドジョウ1個体、ドジョウ1個体が採集された。これら10個体について、体各部の計測を行い比較したところ、カラドジョウとドジョウとして明瞭に同定することができた。さらに、ミトコンドリアDNAの部分塩基配列を決定し、既知のデータと比較した結果、カラドジョウは日本国内に広く侵入しているタイプであり、四国にみられる一部の系統とは異なることが明らかになった。同所で採集されたドジョウ5個体についても同様に塩基配列を決定し比較したところ、在来系統と思われるものが2個体、大陸産の外来系統と思われるものが3個体いることが確認された。

カラドジョウは国の定める要注外来生物であるとともに、愛知県では自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例によって野外への放逐が禁止されている。岐阜県に侵入したカラドジョウの分布や個体数の現状、侵入地点における今後の個体数の動向などについて、調査を継続する必要がある。また、カラドジョウの侵入地点において大陸産と思われるドジョウも確認されたため、在来のドジョウとの交雑による遺伝子汚染が懸念され、こちらも実態を把握する必要がある。